

特集

5

# これからのFUKUSHIを ともにつくる



河内崇典

一般社団法人  
FACE to FUKUSHI  
共同代表  
NPO法人み・らいず  
代表理事

主張

福祉の人材不足は、年々深刻になっています。福祉人材が足りず、サービスの継続や新規サービスの提供ができなくなる事業所が増えていきます。誰もが当たり前で地域で暮らせる社会をつくるためには、福祉事業者が継続的・発展的に福祉サービスを提供し続けなければなりません。そのためには、福祉で働く「人づくり」をしていく必要があります。人材不足という深刻な社会課題の解決に向けて、誰かが取り組むのではなく、福祉に関わるすべての人が主体者となり、考え、行動していく必要があるのではないのでしょうか。

## FACE to FUKUSHI とは

「一般社団法人FACE to FUKUSHI」（以下、「F2F」と表記。エフトゥーエフと呼ばれている）は「日本の「FUKUSHI」を、世界最高の「welfare」に」という言葉を理念に掲げ、誰でも地域で当たり前で暮らせる社会の実現に向けて、福祉で働く「人づくり」を行っています。具体的な活動としては、人材の採用、育成・定着支援、福祉業界の啓発活動という3つの軸のもと、新卒向けの福祉就職フェアや人材戦略に関するフォーラムの開催、福祉従事者向けの宿泊型研修プログラムの実施など、多様なメンバーとともに福祉人材の課題解決に向かう場の提供を行っています。

発足のきっかけは、若手福祉従事者の声でした。「福祉の仕事が続きたいけれど、悩みや不安を相談できる仲間がない」「悩みはあるが、福祉という仕事は続けたい」という想いに応えるため、前身である「一般社団法人全国若手福祉従事者ネットワーク」を経て、2015年に発足しました。

我々の目標は、福祉の仕事が「おもしろい、働いてみたい」と思われ、当たり前のように就職の選択肢に入ること、そして、働いている人がやりがいをもって働き続

け、成長できる社会をつくることです。法人名は、日本の福祉をより素晴らしいものにしていきたい、世界のスタンダードにしていきたいという想いを込めて、ローマ字で「FUKUSHI」と名付けました。多様化・複雑化する福祉課題に対して、未来の福祉をつかっていく人材を育てるため、日々活動しています。

## F2F が考える「FUKUSHI」とは？

F2F が考える「FUKUSHI」の中には、「クリエイティブ」というキーワードがあります。サービスを必要とする人のニーズは日々変わっていきます。また、その人を取り巻く社会環境も日々変化しています。変容するニーズに対応し続けるためには、既存のサービスを変形させたり、まだ存在していないサービスを創り出したりできるような、柔軟な発想力が求められます。福祉＝介護やケア、というイメージが先行している現状は否定できませんが、「何のためにそのケアが必要か」ということを忘れないことが大切なのではないのでしょうか。誰もが当たり前で暮らせる地域をつかっていくことを考えた時、日々のケアだけでなく、目の前にあるニーズをしっかりと受け止めて、必要な支援が地域に「なければ創る」という気概を、特に若い世代に持ってほしいと考えています。



それからもう一つ、F2Fが提唱しているのは「ジェネラリスト」の輩出です。これからの社会に必要なのは、特定の分野に特化した専門家「スペシャリスト」だけではなく、総合性を兼ね備えた「ジェネラリスト」であると考えています。今後ますます、社会課題が多様化・複雑化していくとき、複雑に絡み合う課題に対して支援を生み出すことのできる「ジェネラリスト」が必要になると考えています。目の前の困っている人のニーズの本質を捉え、分野横断的に適切な支援をつくり出せる力が必要となるのではないのでしょうか。

## 大学生にとって魅力ある職場づくりとは？

仕事の魅力を考えてとき、地域の課題に合わせて「多様な事業展開をしているか」という点は1つ外せないポイントです。F2Fが主催している就職フェアや大学生が福祉について語るイベントにおいて、大学生と関わっていて感じるのは、団体の法人格（社会福祉法人なのかNPOなのか等）よりも、事業内容に焦点を当てて、仕事を選んでいるということです。法人理念などもしっかり理解し、自身の考えと照らし合わせながら就職活動を進めている様子がうかがえます。大学生にとって、その団体が展開する事業に際立った特徴があり、「他にはないことをやっている」と感じられることが魅力に直結し、もっと知りたいと思えばインターンやボランティアをしたいという行動につながっていきます。

さらに、その団体が地域の課題に合わせて多様な事業展開をしていけば、「他ではできない“チャレンジ”がこの仕事でできるかもしれない」「自分でも何か新しいことを発信したり、つくれるかもしれない」とわくわくを感じ、働く意欲が高まるようです。

今後、社会にとってますます必要とされていくのは、より地域に貢献できる団体や、地域共生の中核を担っていく職場だとF2Fは考えています。そういった団体とつながりを持ち、人材採用・育成・定着の課題に対して全面的にバックアップをしながら、ともにすばらしい福祉をつくりたいと思っています。

## 採用・育成・定着について 参画することの意義

採用・育成・定着の課題の解決に、一朝一夕で効果が感じられるような特効薬はありません。また、一つの団体だけが頑張ればいいものではありません。法人という垣根を超えて、福祉の魅力発信を考え、実行していくことが必要です。福祉業界全体が一丸となり、息の長い活動をしていくことで、業界全体が明るくなっていくと考えています。F2Fだけで全国に仕掛けを作っていくには、とてつもない時間と労力が必要になってきますが、現在「自分たちの地域をもっと良くしていこう」という志を持った全国各地の仲間を「ネットワークプロデューサー（通称“NP”）」と銘打って、その輪を北海道・宮城県・新潟県・九州・沖縄県へと広げています。F2FがハブとなりNP同士がつながって、福祉人材の課題解決の糸口を探す場を提供しています。勢いのある団体同士は、さらに横のつながりを強くし、それぞれの地域で新しい事業を展開していくでしょう。

全国各地のNPが、「福祉で働くことの価値や意義」を発信し続けることで生み出される小さなうねりが、やがて大きなうねりとなって、業界全体を盛り上げていくことにつながると考えています。今後もF2Fは、その活動のハブとなり、また時には土台づくりもしていけるよう、日々ネットワークを広げています。

## まとめにかえて

人材の採用・育成・定着についての課題を解決するためには、同時に偏りなくそれぞれに対応した施策を進めていかなければならないと考えています。例えば、採用の課題だけに特化した施策を集中的に行って、一時は人材が確保できたとしても、その後の育成・定着の部分をおろそかにしてしまうと、数年後には離職の問題として表面化してくるでしょう。団体内で、ひいては地域全体で、人材について考える機会を持ち、FUKUSHIでチャレンジする若者を応援し続けていくことがF2Fの使命だと考えています。